

## 2011 年度第 2 回学術委員会議事録

(文責：麻里)

日 時：2011 年 11 月 24 日(木) 16:00～17:30

場 所：日本建築学会北海道支部会議室

出席者：緑川，田沼(代理：武田)，伊東，斉藤(代理：菊田)，森(傑)，坂井，羽深，  
鈴木(代理：長谷川)，草刈(代理：麻里)，谷口(代理：伊東)，高井(代理：戸松)，  
真境名(欠席)，後藤(欠席)，菊地(事務局) + 南，森(太)

### 配付資料

- 2-1 第 2 回学術委員会議事次第
- 2-2 2011 年度学術委員会・委員名簿(2011.9.7 改訂)
- 2-3 2011 年度第 1 回学術委員会議事録(案)
- 2-4 「東日本大震災からの教訓，これからの新しい国づくり」シンポジウム案内
- 2-5 総合論文誌廃刊のお知らせ
- 2-6 構造専門委員会
- 2-7 材料施工専門委員会
- 2-8 北方系住宅専門委員会
- 2-9 都市防災専門委員会
- 2-10 支部研実行委員会
- 2-11 2012 年度特色ある支部活動企画についてのご報告
- 2-12 2012 年度建築文化週間事業申請案
- 2-13 2012 年度特定課題研究委員会申請書(環境工学専門委員会)
- 2-14 " (都市防災専門委員会)
- 2-15 会誌編集委員会からのお願い
- 2-16 都市計画専門委員会
- 2-17 歴史意匠専門委員会

### 議事

1. 委員名簿の確認(資料 2-2)
2. 前回議事録の確認(資料 2-3)
3. 本部学術推進委員会の報告として，東日本大震災のシンポジウムが来年 3 月 1 日～2 日に開催(資料 2-4)，および有料化が困難との理由により総合論文誌が廃刊される(資料 2-5)ことが報告された。
4. 特定課題研究委員会の申請内容について南(資料 2-14)，および森(太)(資料 2-13)からの説明の後，質疑応答を行った。採否の審議は後述。
5. 専門委員会・特定課題研究委員会報告
  - (ア) 構造専門委員会(資料 2-6)：11 月に見学会を 2 回開催した。
  - (イ) 材料施工専門委員会(資料 2-7)：第 3 回委員会を 10 月に，構造専門委員会と合同の現場見学会を 11 月に開催。また，特定研究課題「寒中コンクリート工事合理化」では計画通りこれまで実測等が進んでいることも報告された。
  - (ウ) 環境工学専門委員会(資料なし)：11/23 に下川町エコハウスの見学会を北方系住宅専門委員会と共催した。来年 3 月の第 4 回委員会で EGGs 11 の開催を予定。
  - (エ) 都市計画専門委員会(資料 2-16)：夕張市の都市計画についての意見交換会，ほか現在 4 つの企画について進めている。
  - (オ) 建築計画専門委員会(資料なし，次回提出)：特色ある支部活動企画に応募した「東日本大震災を機とした避難移住の実態と支援方策」について検討を進めている。

- (カ) 歴史意匠専門委員会 (資料 2-17): 10 月に行われた建築文化週間事業「小樽, 積丹の建築散歩」では定員 40 名の所 120 名の申込みがあり盛況に終了した。
- (キ) 北方系住宅専門委員会 (資料 2-8): 下川町のエコモデル住宅の見学会を環境工学専門委員会と合同で実施した。また特定研究課題「三角屋根住宅の研究」では資料調査や現地調査を実施し, 本日この後委員会を開催する。
- (ク) 都市防災専門委員会 (資料 2-9): 防災ワンデー2011 (9 月), 2011 建築文化週間事業「防災体験学習」(10 月), 地震防災セミナー in 釧路 (12 月予定), 防災ワンデー2012 (1 月予定) の主催, 共催。
6. 2012 年度支部研究発表会について (資料 2-10)。旭川の北方総研にて二日間 (6/30 ~ 7/1) を予定している。特別企画は会長訪問の年度であるため会長による講演会となる。今後主に北方総研所属の実行委員により準備に入る。
  7. 2012 年度特色ある支部活動企画について (資料 2-11)。例年 2 件ほどの採択が通常であったが, 今年度は東日本大震災を考慮し, 東北支部による企画案 1 件のみが採択される結果となった。
  8. 2012 年度建築文化週間事業申請案について (資料 2-12)。都市防災専門委員会より「地震防災体験学習」, 歴史意匠専門委員会より「建築散歩 - 旭川」についてそれぞれ説明が行われ, 企画内容について議論した結果, 申請 2 案とも採択することとした。
  9. 議事 4.での特定課題研究委員会の 2 件の申請について議論した結果, 2 件とも採択とした。
  10. 日本建築学会北海道支部技術賞について (資料なし)。支部研での発表は義務付けるが, 論文の体での投稿は必須としない等, できるだけ門戸を広げるよう賞規約の改訂を検討中である。また受賞の条件である「賛助会員としての入会」も撤廃も含め検討している。
  11. 日本建築学会大賞・文化賞について (資料なし), 北海道支部からの推薦は今回は 2 賞とも無し。
  12. 建築雑誌スリム化について (資料 2-15)。2012 年 1 月号より頁数が大幅に減少するのに伴い, これまで掲載されていた記事が字数減あるいは掲載自体が無くなることもある。基本的には web での情報発信へと移行する流れ。支部研プログラムの掲載が無くなる, 会告の割り当て字数が大幅に削られるなどあり原稿執筆予定者は注意。

次回, 第 3 回学術委員会は 2012 年 1 月 26 日 (木) 16:00 ~ (終了後, 新年会予定)

次々回, 第 4 回学術委員会は 2012 年 3 月 14 日 (水) 16:00 ~

ともに支部会議室にて開催